熊本日日新聞　平成24年(2012年)2月4日 土曜日　総合　4

熊日出版文化賞　受賞作決まる

熊本県方言辞典

戦争体験と平和への想い　小学校高学年版、中学校・一般版

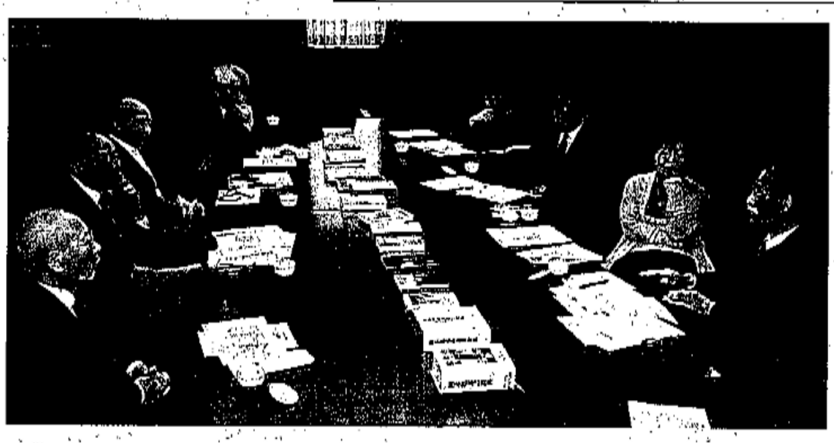
横井小楠漢詩文全釈

貴重な熊本県民の記録

多くに読んでほしい本

今後の研究のベースに

第33回熊日出版文化賞の本選考が3日、熊本市の熊日本社であり、熊日出版文化賞3点と自費出版物に贈るマイブック賞1点が決まった。【1面参照】



候補作について意見を交わす選考委員
＝熊日本社（大田垣典子）

出版文化賞の「熊本県方言辞典」は、県立鹿本高校長などを務めた方言研究家の藤本憲信さん(78)＝熊本市＝が6年がかりで県内各地の2万1957語に及ぶ方言を収録した。「今やらなければできない仕事。熊本県民の記録であり、史料としても貴重」と称賛された。

「戦争体験と平和への想い　小学校高学年版、中学校・一般版」は、戦争の悲惨さを伝えるために人吉市が戦争体験者から聞き取り調査をしてまとめた本。「戦争体験者が少なくなる中で、記録に残す作業は重要。人吉だけでなく多くの人に読んでほしい本」と高く評価された。

「横井小楠漢詩文全釈」は、元熊本大准教授の野口宗親さん(67)＝熊本市＝が、小楠の全漢詩文を原文と訓読、口語による訳文など詳しい語釈をつけてまとめた。「現代人が不慣れな漢文、漢詩文について解釈してあり、今後の小楠研究のベースとなる貴重な仕事」と注目された。

天草版伊曽保物語　影印及び全注釈
言葉の和らげ　影印及び翻刻翻訳

新しく読む機会を提供

マイブック賞の「天草版伊曽保物語　影印及び全注釈　言葉の和らげ　影印及び翻刻翻訳」は、県立大名誉教授の江口正弘さん(81)＝同市＝が、天草で400年以上前に宣教師たちの教科書として日本語（ローマ字）に翻訳された「イソップ物語」を解釈した本。「先行出版された本を踏まえて分かりやすくまとめてあり、読者に新しく読む機会を提供した」と評価された。

熊日出版文化賞は、県内の個人・団体の著作を毎年顕彰。今回は2011年に刊行された100点余りを対象に、1月の予備選考で候補作18点を選んでいた。（浪床敬子）

選考委員は次の通り（敬称略）。

鍬田吉豊（県立図書館情報支援課参事）嵯峨一郎（熊本学園大商学部教授）嶋村清（東海大産業工学部教授）高濱州賀子（熊本大永青文庫研究センター客員准教授）富田紘一（熊本市文化財専門相談員）星子邦子（消費生活コンサルタント）松木良介（グラフィックデザイナー）高峰武（熊日論説委員長）

受賞者コメント

方言研究の集大成

「熊本県方言辞典」の編著者・藤本憲信さん　生活文化としての方言の価値を認めていただき、ありがたい。方言研究の集大成であり、方言を集めるため協力していただいた23人と四つの中学・高校にも感謝したい。

教材としても活用を

「戦争体験と平和への想い」の加賀邦保・人吉市福祉課長　戦争体験者が高齢化する中、戦争の悲惨さや平和の尊さを若い人たちに伝えようと資料を集め、本にまとめた。教材としてもぜひ活用してもらいたい。

関心や理解を深めて

「横井小楠漢詩文全釈」の野口宗親さん　できるだけ分かりやすく読んでもらえるよう心掛けた。熊本が生んだ幕末維新期の優れた思想家・政治家である小楠について、少しでも関心や理解を深めてもらえればうれしい。

天草の貴重な史料

「天草版伊曽保物語」をまとめた江口正弘さん　1984年に大英図書館から原本のマイクロフィルムを取り寄せて研究した。興味深い内容であり、かつて天草で出版された貴重な史料を広く知っていただきたい。

県庁　1月使用電力　ピーク時9.6％削減

目標を達成

県管財課は3日までに、県庁舎の1月の節電状況をまとめた。ピーク時の最大使用電力は前年同月比9・6％減の2260キロワット（1月10日）で、5％の削減目標を大きく上回った。

昨年1月の最大使用電力は2500キロワット。県はその5％に相当する125キロワットの削減を目標に掲げている。総使用電力量は88万2千キロワット時で、前年同月の93万6千キロワット時から5・7％減

荒瀬ダム「地元に感

撤去開始控え知事、殉職者慰霊碑に献花

慰霊碑に献花する蒲島知事＝八代市

県営荒瀬ダムの
来年度から始まる
受け、県は3日、
坂本町の建設工事
慰霊碑で献花式
た。蒲島郁夫知事
和敏市長ら12人が
近くの「道の駅坂
場では地元住民ら
も出席して「荒瀬
謝の会」が開かれ
県企業局による
瀬ダムは1954
成。建設には延べ
人が動員された。
には工事で亡くな
12人の名前が刻
り、中には17歳の
る。
知事は献花式の
瀬ダムの堤防を歩

日本を創る

⑤

東電の原発は福島、新潟に増え続け「初期投資は大きいが利益を生む源

見をする
総明副社
社

横並びに扱われ、原子力は特殊ではなくなった」（官僚OB）。

ちりぢりに

2002年、原子炉構

1月原発稼働率　最低の